

《女川原子力発電所2号機における「フィルター付格納容器ベント装置」の設置工事について》

原子力発電所で重大事故が発生した場合、放射能による周辺環境への影響を抑制するためには、まずは、放射性物質を閉じ込める機能を持つ原子炉格納容器（以降「格納容器」と表記）の破損を防止することが非常に重要です。

このため、万が一、原子炉内の燃料を冷やし続けることができなくなった場合、燃料から発生する熱により蒸気が発生し、格納容器内の圧力が高まることから、格納容器の破損を回避するため、一定量の蒸気を外部へ放出して格納容器内の圧力を下げる「ベント」という操作が必要になります。

女川2号機では、この「ベント」操作が必要になった場合に備え、格納容器内の蒸気をフィルター装置に通すことにより、**放射性物質の放出量を1,000分の1以下まで大幅に抑制することができる**「フィルター付格納容器ベント装置」の設置工事を進めています。

2月21日、設置予定のフィルター装置（全3基）のうち、最後の1基を原子炉建屋へ搬入し、現在、据付工事を実施しています。今後も、新規規制基準適合性審査の過程で得られた知見・評価などを適宜反映し、2020年度の工事完了を目指してまいります。



保全部 原子炉グループ
新藤 智也（埼玉県出身）

「フィルター付格納容器ベント装置」は、重要な安全対策設備の一つであり、大規模な工事です。

工事の過程において、今回、フィルター装置の全3基がそろふことは大きな節目であり、発電所員や構内協力企業社員が安全確保を最優先に一丸となって前進してきた証しでもあります。

今後も再稼働に向けて、より結束を強め、残りの工事を着実に進めていきます。

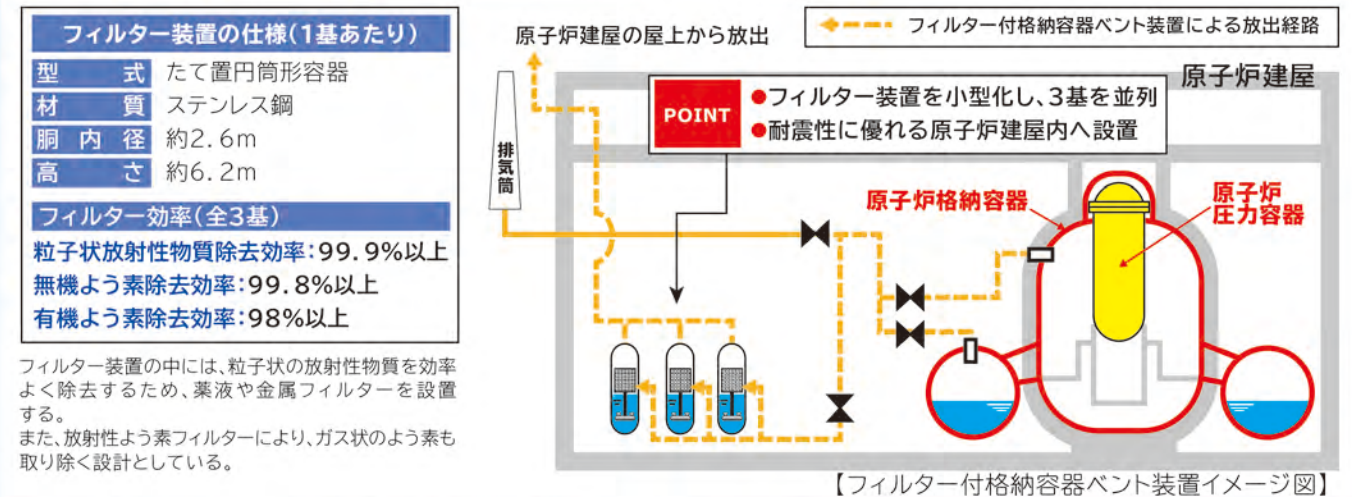
女川2号機ならではの特徴

フィルター装置の数や設置場所に特徴があります。

国内の原子力発電所に設置されるフィルター装置のほとんどは1基で構成され、原子炉建屋外の新たに掘削した地下ピットに設置することとしています。

一方、女川2号機の場合は、フィルター装置1基あたりの大きさを小型化し、3基を並列させることにより、耐震性に優れる原子炉建屋への設置を可能としました。

また、建屋内に設置することにより、放射線量の高い蒸気を通る配管の長さを短くできるなどのメリットもあります。



フィルター装置（全3基）据付工事の変遷



1 全3基のうち、1基目は2018年3月、2基目は2018年8月に、2号機原子炉建屋に搬入された。



2 2019年2月までに2基の据付工事が完了した。



3 2019年2月21日に3基目が、2号機原子炉建屋に搬入された。今後は、配管の設置工事を実施していく。

《女川原子力PRセンター春イベント 「春のワクモリフェスティバル」を開催しました》

3月21日、女川原子力PRセンターにおいて、子どもも大人も楽しめるイベント「春のワクモリフェスティバル」を開催しました。

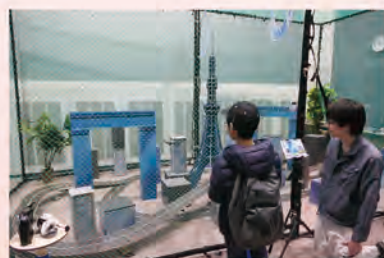
当日は、近隣にお住まいのご家族が多数来館され、石巻市出身でサイエンスインストラクターの阿部清人さんによる「サイエンスショー」や、バルーンアーティストのMIHARUさんによる「バルーンショー」といったステージイベントのほか、ドローンの操縦体験など、遊んで学べるワークショップをお楽しみいただきました。



阿部清人さんによる「サイエンスショー」



バルーンパフォーマーMIHARUさんによる「バルーンショー」



ドローンの操縦を楽しむ参加者

《「女川町復幸祭2019FINAL」に参加しました》

3月24日、女川駅前商業エリアにおいて「女川町復幸祭2019FINAL」（主催：女川町復幸祭実行委員会、共催：女川町）が開催されました。

当日は、来場した子どもたちに、当社キャラクター「マカプウ」の大型遊具「フワフワマカプウ」や高所作業車の試乗会などを楽しんでいただきました。

また、同エリア内にある女川原子力発電所地域総合事務所1階の多目的スペースにおいて、IH料理体験会（参加者：73名）を開催し、「筍としらすの炊き込みご飯」や「銀鮭の味噌ホイル焼き」をご試食いただきました。



子どもたちに大人気の「フワフワマカプウ」



高所作業車の試乗を楽しむ参加者



IH料理体験会のあと、料理を試食する参加者

《『ワークショップ&PRセンター見学会』開催のお知らせ》

開催内容 ※各回ともPRセンター見学会と合わせての開催となります。

※写真はイメージです。

「ハーバリウム」作り 5/8(水)

お申し込み締切日 4/24(水)



「スペインタイル」作り

5/21(火)

お申し込み締切日 5/7(火)

5/26(日)

お申し込み締切日 5/12(日)



フットリンパマッサージ 5/29(水)

お申し込み締切日 5/15(水)



参加者募集 開催時間 10:00~13:00 会場 女川原子力PRセンター 募集人数 15名 参加費 500円/人

(各回共通) 応募者多数の場合 抽選 無料シャトルバス運行 行き/女川駅(9:10発)→PRセンター(9:50着)

帰り/PRセンター(13:10発)→女川駅(13:50発)

お申し込み方法

お電話またはPRセンター受付でお申し込みをお願いいたします。お申し込みの際には、以下の必要事項をお知らせください。

- 参加希望日
- 郵便番号
- 住所
- お名前
- 年齢・性別
- 電話番号
- 職業
- 無料シャトルバスご利用の有無(女川駅~PRセンター往復)

※お申し込みの結果については、開催日の一週間前を目途に、ハガキにてお知らせいたします。

お問い合わせお申し込み

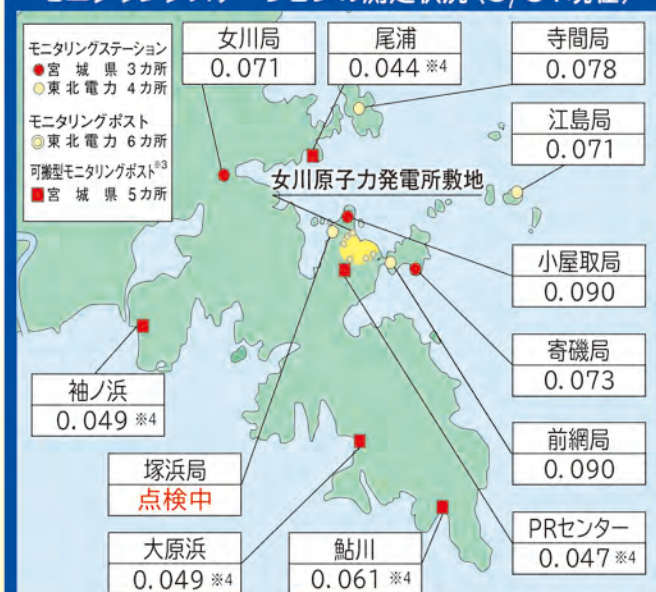
女川原子力PRセンター 電話番号:0225-53-3410 開館時間:9:30~16:30
臨時休館日:4/30(火)・5/1(水)・5/2(木) 住所:牡鹿郡女川町塚浜字前田123

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.051マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(3/31現在)



単位:マイクロシーベルト/時

(参考)モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	測定値
2011年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年3月13日	1.8~21 ※4 ※5
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	
2012年4月1日	0.063~0.098 ※4
2013年4月1日	0.055~0.076 ※4
2014年4月1日	0.046~0.065 ※4
2015年4月1日	0.043~0.077 ※4
2016年4月1日	0.041~0.061 ※4
2017年4月1日	0.038~0.059 ※4
2018年4月1日	0.037~0.048 ※4
2019年3月1日	0.037~0.048 ※4
2019年3月31日	0.034~0.051 ※4

単位:マイクロシーベルト/時

- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 モニタリングポストや可搬型モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。
- ※5 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。